

2007中越沖地震 選挙の記録

(平成19年7月29日執行 参議院議員通常選挙)



道路崩落(山本地内)

柏崎市選挙管理委員会

はじめに

このたび、「2007中越沖地震選挙の記録」を発行することになりました。この記録は、平成19年7月29日執行の第21回参议院議員通常選挙が、7月12日に公示されてから5日目を迎えた7月16日、正に選挙期間のまっただ中に発生した中越沖地震における選挙管理執行体制等の状況を収録したものです。

この冊子が災害時における選挙管理執行体制の参考となり、役立てていただければ幸いです。

柏崎市選挙管理委員会

目 次

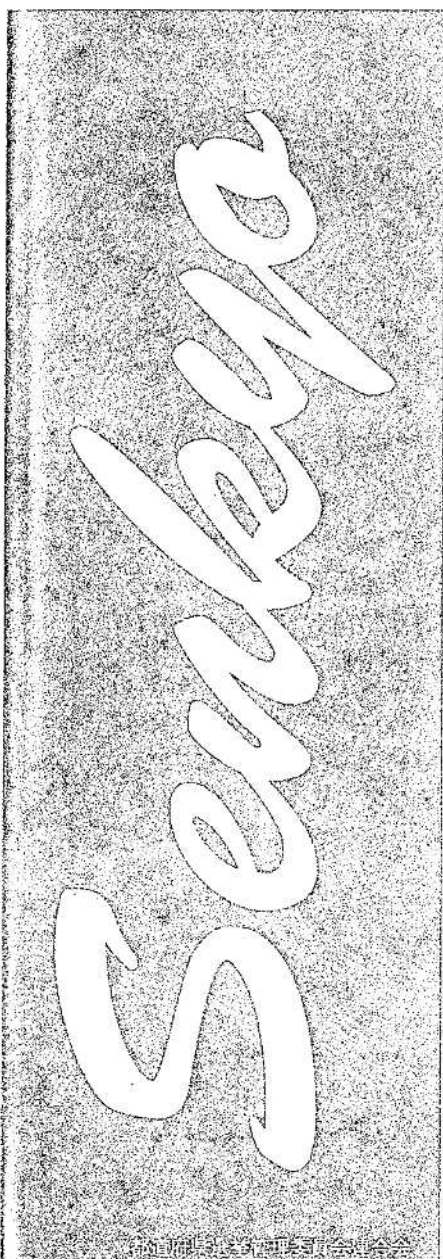
1 「選挙」 選挙管理委員会事務局長 品田 眞弘（被災当時の事務局長）	1
2 平成19年新潟県中越沖地震の被災状況等	
(1) 新潟県中越沖地震の概要	11
(2) 被害状況	11
(3) 地震発生当日の対応	14
(4) その他参考事項	15
(5) 復興支援室の設置	17
3 参議院議員通常選挙の管理執行状況	
(1) 選挙事務室の体制等について	19
ア 通常時の体制	19
(ア) 選挙事務室の開設期間	
(イ) 選挙事務室開設場所	
(ウ) 期日前投票所の開設場所	
(エ) 職員体制	
イ 地震発生時の状況（本庁舎・第二分館の状況）	19
ウ 地震発生後の体制	20
(ア) 期日前投票所2箇所の閉鎖	
(イ) 職員体制	
(2) 選挙事務の執行について	21
ア 選挙事務の見直し等について	21
(ア) 新たな業務として想定されるもの	
(イ) 通常業務の中での見直し項目	
イ 新たな業務への対応	21
(ア) 投票会場及び開票所となる各施設の安全確認	
(イ) 投票会場の協議	
(ウ) 変更となった投票所の周知について	
(エ) 入場券紛失者への対応	
(オ) 開票会場の協議	
(カ) 投開票事務従事者の確保について	
(キ) 公営のポスター掲示場	
(ク) 選挙の啓発周知について	
(ケ) 報道対応	

(3) 投・開票状況について.....	2 8
ア 各種投票状況について.....	2 8
(ア) 期日前投票について	
(イ) 投票総数について	
イ 開票状況について.....	3 2
(ア) 開票時間等について	
(イ) 投票の点検結果	
4 参考資料.....	3 3
(1) 投票会場のレイアウト.....	3 3
(2) 参議院議員通常選挙事務日程表(その他欄に、災害対応の記載あり).....	3 4
(3) 報道記事.....	3 7
(4) 平成20年8月19日鳥取県選挙管理委員会事務局視察時の調査表.....	4 3
終わりに.....	5 5

昭和23年12月24日第3種郵便物認可 平成20年4月25日印刷 平成20年5月1日発行（毎月1回1日発行） 第61巻第5号 ISSN 0488-2806

選挙

2008 5



多選制限の憲法問題 高橋 和之	1
政治資金規正法の一部を改正する法律について(2) 藤田 康幸	7
平成19年度明るい選挙推進優良活動団体の実践活動① 「福井県明るい選挙推進青年活動隊CEPT」の 活動状況について 滝波 彩子	26

【特集：大規模災害の発生と選挙の管理・執行②】

中越沖地震と 第21回参議院議員通常選挙の管理・執行(2・完) 品田 眞弘	18
---	----

資料

(1)都道府県選挙管理委員会委員名簿	31
(2)都道府県選挙管理委員会連合会役員名簿	32
都道府県選管だより	32
平成20年度明るい選挙啓発ポスター作品募集(第60回)要項 ..	34

中越沖地震と 第21回参議院議員通常選挙の管理・執行（2・完）

品田 眞弘

（前柏崎市選挙管理委員会事務局長）

□はじめに

この度の中越沖地震で柏崎市はかつてない大きな被害を受けましたが、その際、全国各地の皆様から心温まる励ましや力強いご支援とご協力をいただきました。

お寄せいただいたご支援とご協力に対し、この場を借りて心から厚く御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

震災から9か月。お陰様で復旧作業も順調に進み、市内もようやく落ち着きを取り戻しつつあります。

本格的な震災復興はこれからになります。が、「がんばろう！輝く柏崎」をスローガンに、市民あげてがんばっています。

□柏崎市の概要

柏崎市は新潟県のほぼ中央に位置し、日本海に面した人口9万人の地方都市です。

明治時代には日本最大の石油精製基地として栄え、現在は世界最大の原子力発電基地として日本のエネルギー政策の一翼を担うなど、エネルギー都市として知られています。産業は主に自動車部品を中心とした機械金属加工業をはじめ、菓子製造などの食品加工業等も盛んですが、市街地周辺にはのどかな田んぼも広がり、「コシヒカリ」などの美味しいお米の生産拠点ともなっています。

また、日本三大薬師のひとつである「霊

峰米山」と美しい海岸岩礁群は、佐渡弥彦米山国定公園にも指定されるなど豊かな自然景観にも恵まれ、延長42キロの海岸線には15の海水浴場をはじめマリーナや海浜公園などが集積し、近県の一海洋レジャー拠点としての賑わいを見せています。

□地震発生時の状況

7月16日の「海の日」の午前10時13分、震度6強の激震が当地域を襲いました。

「中越沖地震」です。

震源地は上中越沖、震源の深さは17km、マグニチュード6.8の直下型で、震源地から約10kmの柏崎はかつて経験したことのない大きな被害を受けました。

この日は祝日でしたが、参議院選挙の公示から4日目ということで、選管職員は通常どおり出勤。庁舎第二分館2階の期日前投票所には、朝から大勢の市民が投票に訪れていました。

10時過ぎ、投票者が途切れ一段落して間もなく、突き上げるような激しい揺れに見舞われました。全員床に投げ出され立ち上がることもできず、部屋中の机やロッカー、パソコンや書類等が散乱して足の踏み場もない状況です。

とにかく「投票箱」の無事を確認し、専任職員2名を残して応援職員等は全員屋外に一時避難しました。その後も大きな余震

が続きましたが、沈静化するのを待って職場に復帰。避難通路を確保しながら散乱した書類やパソコン、机やロッカー等の復旧にあたりました。

幸いだったのは、この時間帯に投票者がいなかったことと住基システムやパソコン等に異常が発生しなかったことです。

本庁には災害対策本部が設けられ、その直後から全職員が避難活動や避難所対策、災害復旧作業のための緊急配備に付くことになりました。

上空には何機ものヘリコプターが絶え間なく巡回し、庁舎周辺は本部車両や全国各地から集まった救援物資車両、マスコミやTV中継車等で連日ごった返し身動きも取れない状態が続くこととなります。

□地震による市内の被害状況

この度の地震による本市の被害状況は、死亡14人、けが人1,664人、建物被害28,144棟（うち全壊：1,110棟、半壊：4,524棟）、道路網は市内全域で寸断され、電気、ガス、水道等のライフラインも壊滅的な被害を受け、施設被害は総額で228,033百万円に上りました。

がけ崩れによる避難勧告等は16か所で152世帯421人が避難し、市内82箇所に設置された避難所には、ピーク時で11,410人が避難をしました。

なお、被害の全容については、次ページの資料をご覧ください。

□選挙関係施設の被害状況とその対応

(1) 期日前投票所

本市の期日前投票所は、本庁第二分館と合併した2町（高柳、西山）事務所の3箇所です。本庁第二分館では、建物のつなぎ目に大きな亀裂が入り、エレベーターも使用不能となるなどの被害を受けましたが、ベニヤ板やゴムシートを敷く等の応急処置

を施し、2階の投票所までの車椅子の移動等は、全て人力で対応することにしました。

2町事務所の被害は軽微でしたが、全職員が災害復旧活動に動員され、投票管理者等の確保も困難となったことから、県選挙管理委員会とも協議のうえ翌17日からは本庁の1箇所を集約することにしました。

当然のことながら、地震直後の一時期は投票者数が激減しましたが、私たちは市民への生活支援情報の伝達が最優先と考え、あえて防災無線等による投票の呼びかけはしませんでした。

それでも投票者が途絶えた日は1日もなく、選挙期日の数日前からは日増しに増加するようになり、最終的には前回とほぼ同数の3,500人くらいまで回復しました。

(2) 投票日当日の投票所

震災後、私たちが最も心配していたのは投票所の被害状況でした。建物被害は1施設だけでしたが、問題だったのは59投票所のうち29施設が避難所になってしまったことです。

公共施設のほとんどが避難所になってしまった以上、これだけの代替施設を新たに確保することは困難なことから、投票所は既に告示され、市の広報や入場券等でも周知済みのため、無用な混乱を避けるためにも指定施設はできるだけ変更しない方針で臨むことにしました。

まず、同一施設内の他の部屋の使用を検討する。それが困難な場合には避難所となった体育館の一部を区画して使用する。いずれも困難な場合に限り投票所を変更することにしました。

本市は主に、投票所として地域ごとに設置されているコミュニティセンターを指定していますが、体育館以外の部屋の確保が難しく、体育館も狭いため避難者の人数によっては区画もできなくなる可能性がありますので、とにかく対象施設を回って責任

がんばろう！輝く柏崎

資料 1

平成19年新潟県中越沖地震の被災状況

(平成20年1月7日現在)

柏崎市災害対策本部

- 発生時刻 7月16日(月)午前10時13分
- 震度 6強
- マグニチュード 6.8
- 震源地 上中越沖 新潟の南西60km
北緯37度33.4分 東経138度36.5分 深さ17km
- 市災害対策本部設置 16日10時53分
- 災害救助法の適用 16日20時
- 政府現地連絡対策室設置:16日20時30分 撤収:8月10日
- 県現地对策本部設置:16日21時50分 撤収:8月10日
- 自衛隊派遣要請:7月16日10時40分 撤収:8月27日
- 激甚災害指定(局激):8月10日

- 人的被害 死亡 14人(刈羽村1人)
けが人1,664人
- 建物被害(住居) 28,144棟
(全壊:1,110棟 大規模半壊:675 半壊:3,849 一部損壊:22,510)
- 避難勧告 (11箇所)避難指示(5箇所) 最高 計16箇所 152世帯 421人(2世帯、8人解除)
- 原子力発電所の状況:全号機停止中 2号機起動操作中自動停止
3,4,7号機自動停止 1,5,6号機定期点検中

- ライフライン被害
 - ・ガス 戸数30,978 8月27日全面供給
 - ・水道 戸数40,260 8月4日完全復旧
 - ・電気 7月16日停電戸数23,300戸 7月18日復旧
 - ・施設被害(百万円) 総額228,033
住家・非住家(191,037)公共施設(3,925)文教施設(508)土木(12,763)
農林水産(12,319)ガス(5,826)水道(1,655)

- 避難所設置状況
 - ・ピーク時(7月17日) 箇所数:82箇所 避難人数11,410人
 - ・8月31日 解消
- 在宅高齢者安否確認 対象者数9,017人 7月21日最終確認済
- 災害ボランティア 累計人数20,399人
- 応急仮設住宅の建設 39ヶ所 1007戸 入居約2,465人
- 支援 自衛隊(人命救出、給水、物資輸送、ビニールシートかけ、入浴施設 等)
内閣府、海上保安庁、農林水産省、国土交通省、厚生労働省、気象庁 他
新潟県 他都道府県 市町村他

- 平成19年9月1日 復興支援室 柏崎市中越沖地震復興本部 を設置

期日前投票等の結果及び前回比較

資料 2

参議院新潟県選出議員選挙

前回(平成16年7月11日執行)						今回(平成19年7月29日執行)					
月	日	男	女	計	累計	月	日	男	女	計	累計
6	25	41	23	64	64	7	13	59	45	104	104
6	26	56	28	84	148	7	14	90	89	179	283
6	27	49	34	83	231	7	15	100	85	185	468
6	28	45	47	92	323	7	16	31	27	58	526
6	29	62	32	94	417	7	17	8		8	534
6	30	40	28	68	485	7	18	7	9	16	550
7	1	53	56	109	594	7	19	19	14	33	583
7	2	79	55	134	728	7	20	28	19	47	630
7	3	121	95	216	944	7	21	36	38	74	704
7	4	162	139	301	1,245	7	22	72	57	129	833
7	5	123	105	228	1,473	7	23	90	67	157	990
7	6	137	154	291	1,764	7	24	157	107	264	1,254
7	7	163	151	314	2,078	7	25	146	117	263	1,517
7	8	187	179	366	2,444	7	26	188	159	347	1,864
7	9	228	217	445	2,889	7	27	309	281	590	2,454
7	10	321	326	647	3,536	7	28	529	493	1,022	3,476
合計		1,867	1,669	3,536		合計		1,869	1,607	3,476	

中越沖地震

期日前投票

不在者投票

期日前投票

+ 不在者投票

前回(平成16年7月11日執行)						今回(平成19年7月29日執行)					
月	日	男	女	計	累計	月	日	男	女	計	累計
6	25					7	13				
6	26					7	14		2	2	2
6	27	2	2	4	4	7	15	4	1	5	7
6	28	2	1	3	7	7	16	2	1	3	10
6	29	2	2	4	11	7	17	1		1	11
6	30	1	2	3	14	7	18	1	1	2	13
7	1	6	12	18	32	7	19	3		3	16
7	2	7	1	8	40	7	20	3	1	4	20
7	3	1		1	41	7	21	1		1	21
7	4	3	1	4	45	7	22	2	1	3	24
7	5	4	1	5	50	7	23	2	1	3	27
7	6	99	85	184	234	7	24	20	13	33	60
7	7	17	17	34	268	7	25	81	63	144	204
7	8	68	71	139	407	7	26	71	61	132	336
7	9	23	25	48	455	7	27	66	65	131	467
7	10	2	1	3	458	7	28	16	15	31	498
7	11	2		2	460	7	29				498
合計		239	221	460		合計		273	225	498	

前回(平成16年7月11日執行)						今回(平成19年7月29日執行)					
月	日	男	女	計	累計	月	日	男	女	計	累計
6	25	41	23	64	64	7	13	59	45	104	104
6	26	56	28	84	148	7	14	90	91	181	285
6	27	51	36	87	235	7	15	104	86	190	475
6	28	47	48	95	330	7	16	33	28	61	536
6	29	64	34	98	428	7	17	9		9	545
6	30	41	30	71	499	7	18	8	10	18	563
7	1	59	68	127	626	7	19	22	14	36	599
7	2	86	56	142	768	7	20	31	20	51	650
7	3	122	95	217	985	7	21	37	38	75	725
7	4	165	140	305	1,290	7	22	74	58	132	857
7	5	127	106	233	1,523	7	23	92	68	160	1,017
7	6	236	239	475	1,998	7	24	177	120	297	1,314
7	7	180	168	348	2,346	7	25	227	180	407	1,721
7	8	255	250	505	2,851	7	26	259	220	479	2,200
7	9	251	242	493	3,344	7	27	375	346	721	2,921
7	10	323	327	650	3,994	7	28	545	508	1,053	3,974
7	11	2		2	3,996	7	29				3,974
合計		2,106	1,890	3,996		合計		2,142	1,832	3,974	

なお、投票所を変更した地域には、町内会を通じて「変更のお知らせ」を全戸配布するとともに、防災無線や地域FM放送等を通じて周知を図りました。

(3) 開票所の被害状況

開票所に指定した総合体育館の被害は甚大でした。天井板やフレーム、照明器具等の一部が破損脱落し、漏電による電圧低下も懸念されたことから、管理委託業者から使用不可の通知を受けました。しかし、これに代わる施設がないため、危険箇所は責任を持って立ち入り禁止の措置を取ること、電圧低下には発電機を投入することなどを約束し、何とか使用の許可を得ることができました。

体育館への進入道路も数箇所に亀裂や段差等が生じて通行困難な状況でしたが、所管課と協力、連携をとり早急に応急修理をしてもらいました。

問題だったのは、市内全域にわたって道路が寸断されていることから、投票所から開票所までの投票箱搬入ルートはどう確保するかでした。

道路の被害状況が十分把握できなかったこと、また、災害復旧車両等で慢性的な交通渋滞が続いていたこと等から、一時は開票時間の繰下げまで考えましたが、最終的なルートの選定等は各投票所職員の判断に任せることにしました。

その結果、開票開始時間が多少遅れたとしてもそれは仕方がないだろう…一種の開き直りの決断でしたが、全員が時間内に到着するまでは心配のしどおしでした。

(4) ポスター掲示場等

ポスター掲示場は427箇所。設置建物や塀等の倒壊により破損したものが多数あったと思われませんが、設置業者に確認をお願いしても動ける状態にはなく、施設所有者等から連絡があった場合のみ、直接回収に伺うだけで精一杯でした。

その他では、投票箱、記載台、自動交付機等の投開票用物品は、保管棚が倒壊し物品が散乱したものの大事には至らず、何よりも住基システムのダウンやパソコンデータ等の損傷等がなかったのは本当に助かりました。

今後の課題として、住基システム等がダウンした場合の具体的な対応方法について確認しておく必要性を感じました。

□苦勞した選挙事務従事者の確保

この度の地震災害で私達が一番苦勞したのは、選挙事務従事者の確保でした。

地震による救急活動や避難所対策、ライフラインの復旧作業にと全職員総出の不眠不休の作業が続く中で、どのセクションでも慢性的な人手不足に陥りました。

当然のことながら、選管職員にも避難所や救援物資搬送等の動員がかかってくるので、連日ローテーションを組んで対応しなければなりません。

まさに「選挙どころではない」という状況の中で、選挙事務室への応援者も10人から7人程度となり、やむなく投票事務従事者も380人のところ360人に、開票事務従事者も300人のところ270人にそれぞれ削減することになりましたが、それでも必要人数を確保することができませんでした。

普段声をかけなかった保育士や臨時職員、現業職員等に協力要請をしても足りず、また、確保した後から次々にキャンセルが出るため、いつまでたっても従事者名簿が確定できず大変心配しましたが、最終的に対策本部とも協議の上、市職員が選挙当日選挙事務で抜けた跡を県職員の方々から応援に入っていただくことで何とか決着しました。

県職員の皆さまには大変お世話になりました。改めて御礼を申し上げます。

なお、今回のように選挙期間中に大きな

災害が発生した場合、選挙協力職員をどのようにして確保するのか。最重要課題として事前に検討しておく必要性を感じました。

□大変だったマスコミ対応

予想もしなかったのが全国各地から集まった報道関係者への取材対応でした。

震災直後から庁舎周辺にTV中継車等が何台も入り込み、朝から晩まで連日20社以上の取材に対応せざるを得なくなったのです。

断ることもできず、多忙を極める中での各社の取材は正直言って大変迷惑な話でしたが、一方で、情報が伝わりにくい状況の中で、私たちが市民に伝えたい情報がマスコミを通じて広く周知されていく様子も実感として感じ取れました。

「選挙はあるの?」「期日前投票はやるの?」「入場券をなくした場合どうすればいいの?」「投票所は大丈夫なの?変更はないの?」…こうした様々な質問や疑問も、TVやラジオ、新聞等による報道を通して詳しく紹介されたためでしょうか、市民からの電話等による照会は思ったほど多くありませんでしたし、非常事態にもかかわらず投票所等での混乱もほとんどありませんでした。

また、震災直後の選挙ということで投票率の大幅な落ち込みも覚悟せざるを得ない状況でしたが、こうしたマスコミ報道に伴うPR効果にも大いに期待をしていました。

結局、前回の67.24%を7.69ポイント下回る過去最低の59.55%になってしまいましたが、それでも多少なりとも効果があったものと信じています。

なお、こうした災害時に最も頼りになるのがコミュニティFM放送(FMピッカラ)でした。

市民の身近な情報源として親しまれ、災害時には24時間体制で大切な情報を届けて

もらえることから、投票所の変更や投票の呼びかけなど、市民への周知手段として大いに活用させてもらいました。重要な情報を繰り返し放送してもらえるのも強みで、特に今回は大助かりでした。

□異例づくめの中での選挙

震災下での選挙ということで全国的にも注目を集めていた地域でしたし、県職員の全面的なバックアップを受けての選挙でしたので、「どんな間違いも絶対に許されない」との思いから、私たちには想像以上の大きなプレッシャーがかかっていました。

加えて、全職員が復旧作業等で疲れもピークに達していること、また、選挙に不慣れな保育士や現業職員等も総動員しての事務執行ということで、実務上単純ミスの出やすい環境にありました。

「時間がかかってもしつかり確認を」…。特に投票用紙の交付誤り等がないよう、事務担当者には何度も事前確認の徹底をお願いしました。

7月29日、大きな不安を抱えながら参議院選挙の投票が始まりました。投票時間がこれまでになく長く感じられました。投票事務を無事終えて開票所に集まってくる職員を見た時、内心ほっとしました。

開票も予定どおり午後9時15分に開始され、午後11時20分には選挙区を、翌日の1時10分には比例区を無事終了することができました。

先の見えない不安だらけの選挙でしたが、何とか責任を果たすことができたのは、先々で職員をはじめ大勢の方々の支えがあったからだと思っています。

ご協力いただいた全ての皆さんに改めて感謝を申し上げたいと思います。

□繰延投票について

震災直後の「選挙どころではない」とい

中越沖震災地

投開票「場所も人も不足」

一部投票所 選管深夜の準備作業 急ぎよ変更



新潟県中越沖地震で被災した自治体の選挙担当者
が、26日忘れた参加者の
投票所に向け対応に追わ
れている。投票所を予定し
ていた小学校避難所にな
ったため、投票所を交
更したり、投票事務にあ
たる職員を確保したり
なっている。

このため、80人以上避難
住民を確保している市選
管では、開票日の前日
開票日の前日は開票
開票日の前日は開票
開票日の前日は開票

「このため、80人以上避難
住民を確保している市選
管では、開票日の前日
開票日の前日は開票
開票日の前日は開票

「このため、80人以上避難
住民を確保している市選
管では、開票日の前日
開票日の前日は開票
開票日の前日は開票

平成19年7月26日付
読売新聞

の具体的な対応方法等も事前に検討しておく必要があるように思います。

例えば、選挙事務協力者を確保するための職員OBの活用や近隣市町村選管との職員相互派遣体制の検討。住基システムやパソコンデータ等が機能しなくなった場合の対応方法。それと災害時を想定した代替え可能施設のリストアップやマスコミへの対応方法等々…。一度検討してみてもはいかがでしょうか。

今回の私たちのこうした経験は、できれば皆さんからは味わって欲しくはありませんが、もし、不幸にして選挙時に災害等に見舞われた場合には、思い出して参考にさせていただければ幸いに存じます。

う状況の中で、繰延投票も一つの選択肢ではありましたが、今回はそれを選択しませんでした。

その最も大きな理由は、投票日まで2週間近くあったことです。

予定どおり執行した場合、それに伴う様々な障害も予測されましたが、2週間あれば市内の混乱状態も少しは落ち着き、選挙業務も何とか収集できると判断したからです。

なお、繰延べするにしても先の見通しが全く立たない状況であったこと。地方選挙ではなく全国一斉の国政選挙であったこと等も考え合わせると、多少無理をしてでも予定どおり実施した方が逆に市民の混乱も少なく、また、私達の労力もリスクも少なくて済むだろうと考えたからです。

今回の場合は結果オーライで済みましたが、これがもし投票日の1週間前だったらどうだったのか…。そう考えると今更ながら「ぞっと」するわけです。

結局、その判断はケースバイケースということになるわけですが、どういう状況になったら選択すべきか等も事前に検討しておく必要があるのではないかと思います。

□おわりに

振り返ってみると、震災直後は早急にやらなければならない仕事如山積し、何かから手をつけていか分らない状態でしたが、とにかく目の前の仕事をただひたすらこなし続けていたら、いつの間にか終わっていた。と言うのが実感です。

あれもこれもと欲張ってみても自ずと限界がありますし、どうしてもやらなければならない仕事かどうかの見極めも必要だと感じました。

いずれにしても、今回のようなことはごく稀な特異なケースだとは思いますが、この先起こらないとも限りません。その場合

2 平成19年新潟県中越沖地震の被災状況等

新潟県中越沖地震柏崎市の対応と復興状況（ダイジェスト版）より抜粋

(1) 新潟県中越沖地震の概要

発生

平成19年7月16日
 (月；海の日で休日)
 午前10時13分23秒

震源地

上中越沖 新潟の南西60km
 北緯37度33.4分
 東経138度36.5分
 深さ17km

マグニチュード(M) 6.8

計測震度 6強

発震機構は北西 - 南東方向に圧力軸を持つ逆断層型

- ・ 柏崎市の沿岸部で地殻が最大北西方向へ約17cmの移動。
- ・ 現地調査や水準測量の結果から、柏崎市観音岬を中心に最大約25cmの隆起。
- ・ 柏崎験潮所で約4cmの沈降。

(2) 被害状況

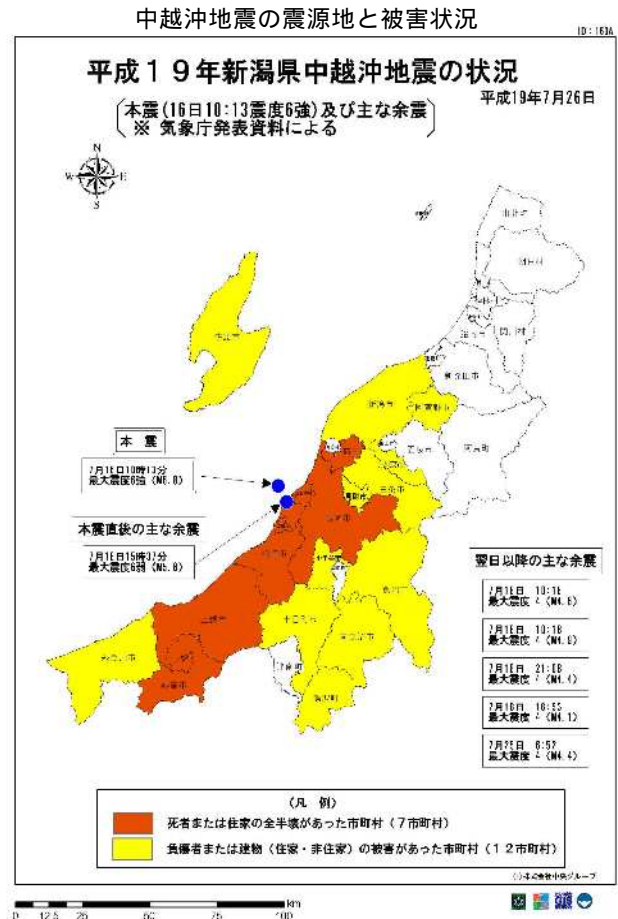
平成19年6月30日現在の人口と世帯数

人口 94,358人(うち外国人登録者数；840人)

世帯数 34,537世帯(うち外国人世帯数；696世帯)

人的被害

- ・ 死亡 15人(うち、1人は刈羽村)
- ・ 負傷者 1,664人(重傷217人、軽傷1,447人)
- ・ 避難者 最大 11,410人(新潟県内では、12,483人)
- ・ 避難勧告 16箇所、152世帯421人



建物被害

- ・住居 28,426棟
 - 全壊家屋 1,121棟、大規模半壊 676棟
 - 半壊家屋 3,907棟、一部損壊 22,722棟

施設被害 総額 2,270億4,528万円

区 分	被 害 金 額
住家・非住家	1,928億8,470万円
公共施設関係	34億 989万円
文教施設関係	5億 797万円
土木関係	146億2,373万円
農林水産関係	75億9,749万円
ガ ス 関 係	62億9,013万円
水道関係	17億3,137万円

ライフラインの被害

区 分	被害状況	全面復旧月日	復旧日数
電 気	停電戸数 23,300戸	7月18日	2日後
水 道	断水戸数 40,260戸	8月 4日	19日後
ガ ス	断ガス戸数 30,978戸	8月27日	42日後
公共下水道	被害延長 40.4 km 発災直後から処理を継続。	8月11日 (応急仮配管が終了)	26日後
農業集落排水	被害延長 33.1 km 発災直後から処理を継続。	8月14日 (応急仮配管が終了)	29日後

避難勧告・避難指示の状況

崖崩れ及び地すべり・擁壁倒壊・市道の崩落により、避難の必要な地区に対し、避難勧告または避難指示を発令した。(16箇所、152世帯421人)

・避難勧告発令(11箇所)

勧告地域.....米山町、西山町五日市(2箇所)、山本、青海川、中浜二丁目、番神二丁目
東の輪、上輪、長崎、笠島

・避難指示発令(5箇所)

指示地域.....西山町中央台、西本町二丁目、番神二丁目、青海川、西山町別山

避難勧告・避難指示の解除

平成20年12月26日(発災から17か月目)に、避難勧告・避難指示はすべて解除された。

避難所の開設

区 分	指定避難所等	福祉避難所
設 置 期 間	19年7月16日 (~ 8月31日閉鎖)	19年7月19日 (~ 8月31日閉鎖)
設 置 施 設	小学校、中学校、高等学校、コ ミュニティセンター、その他の 公共施設	小学校 1、高等学校 1、特別養 護老人ホーム 2、デイサービス センター 2
避 難 箇 所	82箇所	6箇所
避 難 人 数	ピーク時(19.7.17現在) 11,410人 (延べ 66,345人)	105人 (延べ 1,368人)



避難所の様子(柏崎小学校)

(3) 地震発生当日の対応

10時13分	地震(本震)発生	防災行政無線放送による情報提供 全世帯・事業所に設置してある屋内の個別受信機及び屋外のスピーカを通して、地震の被害状況・ライフライン等に関する情報を随時放送し続けた。 また、地元コミュニティ放送局の『FMピッカラ』(災害時における緊急情報放送に関する協定締結済み)が、発災直後から41日間にわたり災害放送を続け、市民へ情報を提供した。
10時40分 (27分後)	自衛隊派遣要請	
10時50分 (37分後)	▶防災無線広報(1) 「津波注意報、隣近所での安否確認、発電所停止」	
10時53分 (40分後)	市災害対策本部の設置 (市役所4階大会議室) 本部員16人中11人が登庁	
11時10分	▶防災無線広報(2) 「避難所開設と避難開始、ガス漏れ付近注意」	
11時25分	▶防災無線広報(3) 「発電所3号機から出火、放射能の心配なし」	
11時40分	▶防災無線広報(4) 「水道の順次停止と水の確保」	
12時05分	▶防災無線広報(5) 「交通情報、停電」	
12時10分	▶防災無線広報(6) 「ガス漏れ付近注意、ガス栓の閉栓」	
12時25分	▶防災無線広報(7) 「発電所3号機の火災鎮火」	
12時35分	▶防災無線広報(8) 「道路情報と通行注意」	
13時04分	▶防災無線広報(9) 「垂れ下がりの電線、電柱への注意」	
13時40分	▶防災無線広報(10) 「避難所開設完了、水と食糧手配中」	
14時10分 (3時間57分後)	避難勧告の発令(第1号) (青海川の一部)	
15時00分 (4時間47分後)	第1回市災害対策本部会議の開催	
15時37分	余震発生 (マグニチュード5.8、震度6弱)	
17時00分	第2回市災害対策本部会議を開催	
18時00分	第3回市災害対策本部会議を開催	
20時00分	第4回市災害対策本部会議を開催 20時現在、1,095人中953人(87.0%)が登庁した。	
21時26分	▶防災無線広報(38) 「市長から市民への地震対応に関する直接の呼びかけ」	
22時00分	第5回市災害対策本部会議を開催	
22時40分	市長臨時記者会見 (市役所5階議場) 20時00分 災害救助法の適用 20時30分 政府現地連絡対策室の設置(～8月10日) 21時50分 新潟県現地対策本部の設置(～8月10日)	

(4) その他参考事項

ア 災害時要援護者への対応

介護高齢課職員による電話及び一部訪問のほか、自主的な民生委員による訪問等により安否確認を行った。

a 在宅高齢者の安否確認

- ・確認期間 平成19年7月16日～7月21日(6日間)
- ・対象者数 9,017人

b 障害者の安否確認

- ・確認期間 平成19年7月16日～7月23日(8日間)
- ・対象者数 1,083人

イ 避難所への食糧の提供

(ア) パン・おにぎりの提供

発災の初日から8月12日まで、避難所(避難所以外で食事の確保ができない方も含む)に対し、新潟県災害対策本部が調達したパン・おにぎり等を提供した。

- ・提供期間 47日間
- ・総提供数 パン・おにぎり 1,214,346食

(イ) 自衛隊による給食サービス(炊き出し)

発災の初日からいち早く炊き出しの体制が準備され、その後も順次拡充、7月20日には毎食20,000食分の提供可能体制となった。

市内のライフラインの復旧と避難者数の減少により、徐々に体制を縮小し、8月12日の夕食をもって終了とした。

- ・提供期間 28日間
- ・総喫食数 677,913食
- ・ピーク時 朝食 約16,400食(7/22)
昼食 約16,300食(7/22)
夕食 約17,800食(7/24)



自衛隊給食サービスの状況

(ウ) 地元鮮魚商組合による弁当プロジェクト

8月13日から8月31日までは、市内のライフラインが復旧したことから地元業者(柏崎鮮魚商協同組合を窓口)に、パン・おにぎり・弁当・野菜ジュースを柏崎市災害対策本部が発注し提供した。なお、8月19日からは、避難所のみを提供した。

- ・弁当 15,782食
- ・野菜ジュース 4,370個

ウ 給水車による飲料水の提供

発災初日には、日本水道協会新潟県支部に給水車50台の要請を行い、当日夕方に応援事業

隊からの給水車第 1 陣が到着(～ 7 月 3 1 日)、夜には自衛隊の給水車(～ 8 月 9 日)も加わり避難所への給水を行った。

・ピーク時 1 日 2 9 3 台

エ 救援物資の受け入れ・配送

救援物資の受け入れは、発災初日から市役所車両倉庫のほか武道館・北園町体育館・夕陽のドーム・JA 倉庫・日通港倉庫などで受け入れた。

発災の 5 日目の 7 月 2 0 日から、各避難所への食糧及び生活必需品の配給は、新潟県の要請により新潟県トラック協会(日本通運株)が、市役所裏車両倉庫内に『救援物資配送センター』を設置し、救援物資の受入管理から在庫管理・倉庫間輸送、さらに配送計画から避難所への輸送まで一切の業務を行った。

このほか、バイク隊を含むボランティアと自衛隊による配送も行われた。

オ 仮設トイレの設置

発災の初日から避難所や主な公園などに仮設トイレを設置した。

・設置数 1, 9 8 8 基

カ 入浴サービスの開始

7 月 1 8 日(発災から 2 日目)から自衛隊による臨時入浴施設等での入浴サービスが実施された。

・陸上自衛隊 2 5 箇所

・海上自衛隊 1 箇所 自衛隊の利用合計 延べ 1 6 0, 5 1 0 人

・市内公設関連入浴施設 7 箇所 延べ 4 5, 7 0 6 人

・市外の温泉ほか入浴施設 1 7 4 箇所

・民間業者 3 箇所

キ 応急仮設住宅の建設

(ア) 建設箇所 3 9 箇所

(イ) 建設場所 ・コミセンの駐車場、広場 9 箇所

・運動場・グラウンド 8 箇所

・都市公園 5 箇所

・学校 2 箇所

・その他の公共施設(広場・駐車場・学校跡地) 7 箇所

・民間(法人・個人)の用地 8 箇所

(ウ) 建設戸数 1, 0 0 7 戸 (建設着手: 1 9 年 7 月 2 3 日～)

ク 人的支援の状況

(ア) 災害ボランティア	延べ	22,316人	
(イ) 行政等公共機関関係	計	192,409人	
・国関係	9,480人		内閣府、海上保安庁、農林水産省等
・陸上自衛隊	90,461人		
・海上自衛隊	6,764人		
・航空自衛隊	2,954人		
・新潟県	6,698人		
・新潟県警	67,120人		
・消防関係	1,093人		
・他の市町村	7,839人		

(5) 復興支援室の設置

平成19年9月1日(発災から47日目)、中越沖地震からの復興支援及び総合調整等を行うプロジェクトチームとして『復興支援室』を設置した。

平成20年度は復興元年との位置付け。

「頑張ろう輝く柏崎」をスローガンに復旧・復興最優先の取り組み。

(全面復興には10年以上かかる見込み)

当初予算465億円 866億円(80%増)

災害復旧補正393億円 補助、交付税控除の一般財源82億円(15億円持出)

